

世界天文年企画「ガリレオ望遠鏡をあなたの手に： こどもたちにガリレオの驚きを伝えよう —簡単な望遠鏡の組み立てと観測」講習会の報告

加藤万里子

〈慶應義塾大学・教授 〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1〉

松本直記

〈慶應義塾高校・教諭 〒223-8521 横浜市港北区日吉 4-1-1〉

表記の講習会が2009年2月7日午後、慶應義塾大学日吉キャンパスで開催された。これまで望遠鏡の観測に縁のなかった大人（特に初等教育関係者）が対象で、参加者が自分で望遠鏡を組み立てて月や天体を観察し、ガリレオの驚きと喜びを追体験する企画である。

まず渡部潤一氏（国立天文台）のガリレオについての講演で始まり、加藤万里子（慶應大学）がガリレオのいた街パドヴァを紹介、松本直記（慶應高校）の解説で星座早見を作成し、その後、望遠鏡を組み立て、月や金星を観測した。

参加者は61名、小学校の先生を中心として教育関係者が1/3、残りは慶應大学の学生と教職員が同数程度であった。望遠鏡キット（星の手帖社15倍）、ガリレオ著「星界の報告」（岩波文庫）、資料の冊子（75ページ）、星座早見盤の台紙（2セット4枚）を参加者に無料配布した。

出席者の主な参加動機は、「天文学が好き」「面白そう」のほかには、小学校の先生では「望遠鏡が苦手だから扱い方を知り授業に生かしたい」、大学の教員は「研究テーマがルネッサンスに関係」「学生を引率して地方にいくと、学生が感動するのは星空だから」。

当日はよく晴れて、月や金星を観察することができた。ほとんどの人が、初めて望遠鏡で月を見て、こんなに綺麗なのかと感動し、クレーターがはっきり見えることに驚いていた。特に小学校の



グループに分かれて望遠鏡を組み立てる。熱心で楽しそう。



高校の屋上で自作の望遠鏡で月を観察する参加者。

先生方は、「次は子どもたちといっしょに見たい！」「この感動を子どもたちに伝えたい」という感想を寄せてくれた。

詳細は以下参照のこと。

<http://sunrise.hc.keio.ac.jp/~mariko/galileo09>